

社外取締役メッセージ



取締役
(株) 山梨中央銀行社外取締役
増川 道夫

グループの陣容が整い、いよいよ“第2幕”へ

この1年を振り返ってみると、業界最大手へ駆けあがってきた“第1幕”の総仕上げの年という感じがしています。円滑な統合によりグループの陣容が整い、ローコスト気質も広く定着し、実践されていると思います。

ここからが、いよいよ“第2幕”です。業界をリードする企業への成長が期待されるのですが、取り巻く環境はなかなか難しいと思います。まず、SDGsや脱炭素の潮流。行き過ぎた正論にはためらいますが、「節度と思いやり」と考えれば納得もできます。社会的な責務を果たすことはリーダーとして大事ですが、そうした潮流を活かした商品やサービスを前向きに作って欲しいと思います。次に、高齢化問題とそれに続く人口の減少。すでに3～4人に1人は高齢者であり、これまでとは全く違う発想が求められていく、最も身近な課題でもあります。さらに、世界の政治・経済・社会はここ数十年なかったスケールで不安定化しており、先行きが読めない状況にあります。これまで以上にアンテナを高くし、グループ内の情報共有と柔軟かつスピーディーな決断を行っていく必要があると考えています。

こうした状況下、収益力の強化が最優先課題であることは言うまでもありません。配当も賃金も社会的貢献も収益力なくしてはあり得ません。ローコストオペレーションが基本であり、そして、いい商品が何より重要です。「面白くて、かつ役に立つ」プライベートブランド (PB) 商品の創造を期待しています。失敗を恐れずにトライして欲しいと思っています。



取締役
(株) テラスカイ社外取締役
宇野 直樹

首都圏店舗網拡充とグループならではの経営に期待

DCMホールディングス株式会社にとって、この1年の最大イベントは、株式会社ケーヨーの完全子会社化でした。これで、日本最大のマーケットである首都圏の店舗網が充実したものとなり、また、株式会社ケーヨーがDCMグループの効率的な業務運営体制をとることで、売り上げ増・コスト改善の両面でグループ全体に大きく寄与することが期待できると考えています。さらに、この拡充した店舗網のもとで、DCMグループがこれまで取り組んできた、東京・恵比寿の「DCM DIY place」での様々な先進的な取り組みを全店展開すること、お客さまにとって価格価値の高いエクспライズ株式会社のプライベートブランド (PB) 家電製品「MAXZEN」を全店販売すること、自転車販売などで大きく成果を上げているBOPISのしくみの一層の展開を図っていくことで、これまで以上にお客さまに当社ならではのユニークな価値をお伝えすることが期待できると考えています。

DCMグループは、トップラインが伸びなくてもボトムラインを上げられる効率的な経営体質を築き上げており、全体のパイが縮小していくわが国で強みを発揮できます。また、DCM株式会社の傘下からDCMホールディングス株式会社の傘下になり、より経営の自由度が増したホダカ株式会社、EC専門企業として安定度が増してきたエクспライズ株式会社がグループへの貢献度を高めることが期待でき、高収益企業体としての実績が着実に実現される1年になると考えています。



取締役
西村あさひ法律事務所・
外国法共同事業パートナー
小口 光

「生活快適化総合企業」としての貢献を目指す

2030年のビジョンとして掲げる「生活快適化総合企業」へと転換を図るために必要な準備が整った2023年度でした。「モノを販売する会社」から「豊かなくらしを総合的に提供する会社」への発展は、様々な可能性を示しています。日本全国に840超のリアル店舗を持つDCMグループにとって、全国のお客さまへ、商品やサービスのみならず、空間の共有や体験を通じて「豊かなくらし」を提供することは、日本のサステナビリティ課題への取り組みそのものと言えるでしょう。年代・性別・出身地域も異なる従業員が、多様な知識と経験を持ち寄り、楽しみながら生み出す取り組みが、一人ひとりのお客さまの生活快適化、それを活性化させるコミュニティの形成、ひいては持続可能な社会の形成にも貢献していくといった、新しい循環が生まれていると感じています。

東京・恵比寿で運営する、DIYに特化した体験型ホームセンター「DCM DIY place」では、子育てママ・パパ向けイベント等のコミュニティづくりにも力を入れています。全国各地の店舗でも、環境配慮素材を使ったDIYワークショップや、理学療法士を招いた健康イベントが好評です。福祉サポートショップでは、介護用品・福祉用具の販売やレンタル、自宅リフォーム、介護保険利用のサポートを行っています。「ホダカ」では、プロとセミプロのコミュニティが活気づいています。

2024年度も、新しい取り組みを通じ、お客さまのくらしが夢に近づき、その結果、事業収益にも大いに貢献する、そんな事業の新機軸が生まれてくることを期待しています。



取締役
(株) IBAカンパニー
代表取締役社長
射場 瞬

グループの強み・シナジーを生かした進化が楽しみ

DCMホールディングス株式会社は進化と変化を続けていく、そのベースが整ったと感じることができた1年でした。今後の拡大への基盤を特に強く感じたのが、昨年10月からTOB (株式公開買付け) で実行された株式会社ケーヨーの完全子会社化でした。この完全子会社化により、DCMブランドが業界での存在感と売上シェアを伸ばすことができました。株式会社ケーヨーとは、以前からパートナー企業としてスムーズな統合に向けた関係強化に取り組み、商品の共同購買やプライベートブランド (PB) 商品の共同展開を進めたり、2022年度に持ち株比率を31.8%へと引き上げたことなどにより、子会社化後に1つのDCMとなるスピードを加速させることができたと思います。今後、株式会社ケーヨー、そしてエクспライズ株式会社も加わった基盤を活用して、当社ならではの強み・シナジーを熟考し、DCMグループ全体として前進していくこと、その発展を期待しています。

当社のみでなく、流通業界全体にとって継続的な変化と進化が必要となる重要な時期だと思います。次世代リーダーの人材育成、デジタル化、プロ向け専門店ホダカの進化、お客さまに寄り添ったプライベートブランド (PB) 商品開発など、DCMグループは引き続き“変わる”努力を続けていきます。来年の統合報告書のメッセージで“進化のご報告”ができることを楽しみにしています。